Osaka University Knowledge Archive

Title	近代建築における空間構成の美的論理に関する研究 ミース・ファン・デル・ローエの作品分析を通じて
Author(s)	佐野, 潤一
Citation	大阪大学, 1996, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.11501/3110208
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

【 128 】

氏　　名	佐　野　潤　一（さの じゅんいち）
博士の専攻分野の名称	博　士（工学）
学位記番号	第　12276　号
学位授与年月日	平成8年3月5日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
学位論文名	近代建築における空間構成の美的論理に関する研究 ミース・ファン・デル・ローエの作品分析を通じて
論文審査委員	(主査) 教授 紙野 桂人 教授 舟橋 國男　教授 柏原 士郎　教授 東 孝光

論文内容の要旨

現代建築の空間構成の美的論理を近代建築第一世代の世界的建築家ルートヴィッヒ・ミース・ファン・デル・ローエ（1886～1969年）の空間構成論理の解明を通じて考察している。1968年のニューヨーク近代美術館ミース・ファン・デル・ローエ資料室の開設，1986年の生誕100年に因む多くの研究書の出版にもかかわらず，彼の建築における空間構成論理であるプロポーションシステム等の問題はこれまで殆ど解明されてこなかったことを受けて，このテーマに取り組んでいる。

研究の手法として，ミース・ファン・デル・ローエの作品分析，特に図面分析を通じて彼の空間構成論理としてのプロポーションシステムの存在の有無，作品との関係等を経年的に検討している。

序章では，研究の位置付け，諸概念の整理を行うとともに，プロポーション問題の意義を明らかにしている。

第1章では，ミース・ファン・デル・ローエの初期の革新的プロジェクト，煉瓦造田園住宅案（1924年）について，主要壁の位置が所謂黄金比（1：1.618…）といった特別な数値的関係によって決定されているとの結果を得ている。

第2章では，1930年の戦没者慰霊堂案における内部空間のプロポーション，つまり室内の幅と天井高の関係が前例同様，黄金比によって決定されているとの結果を得ている。

第3章では，1993年のドイツ帝国銀行案のファサードにおける中心的要素である玄関ホールの窓の幅とファサード全体の幅との関係が黄金比によって決定されているとの結果を得ている。

第4章では，1930年代の一連のコート・ハウス計画案の一つで，特に著名な三つの中庭をもつコート・ハウス案（1934年頃）の平面について，敷地の形が長辺短辺比が黄金比をなす黄金矩形によって決定され，さらに主要な空間軸や壁の位置が，黄金矩形の中に逐次正方形を作っていく所謂「回転正方形」によって決定されているとの結果を得ている。

第5章では，傑作とされるファンズワース邸（1946～51年）について，H型のコアをもつ平面が黄金矩形の組み合わせから決定されているとの結果を得ている。

第6章では，ミース・ファン・デル・ローエ自身が美しいプロポーションをもつというIITチャペル（1949－52年）の平面の輪郭，及び間仕切壁等の位置が黄金矩形の「回転正方形」的な方法で決定されたという結果を得ている。

結論では，以上の分析結果より，ミース・ファン・デル・ローエの建築の空間構成論理として黄金比や黄金矩形に基づくプロポーションシステムが存在し，それは彼にとって生涯を通じての重要な空間構成論理であったとの考察の結果を得ている。さらに天才的プロポーション感覚の建築家とは別の，黄金比といった規範を使用した建築家という新たなミース・ファン・デル・ローエ像も導出されている。

最後にミース・ファン・デル・ローエと並ぶ近代建築の世界的建築家ル・コルビュジェの黄金比による寸法体系「モデュロール」の存在を考え合わせると，黄金比に基づくプロポーションシステムは，まさに近代建築における指導的な，空間構成の美的論理であり，現代建築の問題にもつながるものであるとの結論に至っている。

論文審査の結果の要旨

近代建築は高度な機能性に応じる技術的な答えを追求するが，同時にその空間の造形性をもって社会の文化環境を高めること，すなわち美的表現を求められている。前者が近代文明において突出した条件となったのに対し，後者は古代文明以来，不変の社会的要請と言えるであろう。しかし現代建築は，美的表現の問題に対する理論的解答を見出すことに必ずしも成功していない。

以上の背景を踏まえて本論文は，美に関する論理システムによって近代建築の空間構成を位置づける可能性を求めている。そこで，不変の古典的原理と認められる古代ギリシャのシュンメトリア（Symmetria）から，その中心概念である比例性を現代的なプロポーションシステムとして捉える。そして，近代建築の造形性に基礎的な影響をもたらした巨匠ミース・ファン・デル・ローエ（M.V.Rohe）の作品において，その適応を図像的に実証し，近代建築の表現性の根幹にその美的論理を位置づけようとしたもので，次のような成果を得ている。

(1) 空間構成の美的論理問題の提起そのものに，建築空間論上重要な新たな思索の糸口が包含されており，それに至る基礎的考察を明確に提示している。

(2) シュンメトリアにおける比例性のパラダイムに関する研究は，建築論研究において一定の積み重ねがなされてきているが，近代建築における空間構成のプロポーション・システムとして論理的一般解に結びつける試みは十分ではなかった。これに対する取組みを行い，建築家M.V.Roheが行った空間構成過程の中で，その位置づけを示している。

(3) 近代建築造形，特にその空間性において代表的な創造力を示したM,V.Roheの諸作品において，暗々裡に包含されたプロポーション・システムの発掘は，明示的には様式性の否定から出発した近代造形原理の根幹に，美的原理の不動性を示したものであり，有意義な試論に踏み込んだものと評価される。

(4) 作品分析を通じて見出された図像解析の手法に新たな着眼があり，その提示によって今後の空間決定システムに示唆を与えている。

以上のように，本論文は建築空間構成に関わる美的論理問題に取組んで，新たな問題意識と知見の発掘に成功しており，建築設計論上の寄与をもたらしている。よって本論文は博士論文として価値あるものと認める。